

女性未来育成センター かわら版



平成26年11月10日発行

発行:愛媛大学ダイバーシティ推進本部女性未来育成センター

<http://hime.adm.ehime-u.ac.jp>

TEL/FAX 089-927-8602 E-mail hime@stu.ehime-u.ac.jp

学会も男女共同参画・ダイバーシティ推進に取り組んでいます。

濱村奈津子(沿岸環境科学研究センター特命准教授、微生物生態学会男女共同参画・ダイバーシティ推進委員長)



私の所属する微生物生態学会では2年前に男女共同参画・ダイバーシティ推進委員会を立ち上げ、学会における男女共同参画活動、さらに男女の枠組みをこえた、多様性のある環境づくりを推進する活動を行っています。主に大会時の託児所運営の協力、シンポジウムの開催や学会誌への投稿による啓発活動、そして学会が進める日本・韓国・台湾合同シンポジウムの機会を利用した女性研究者の国際ネットワークの構築などに取り組んでいます。今年浜松で開催された学会大会では「国際的な研究キャリアパスを築く ～留学&ライフステージのハードル・メリット・デメリット～」と題したシンポを開催し、今後さらに進むと予想される研究環境や大学の国際化・多様化に柔軟に対応する手段の1つとして、国際的な教育研究経験について座談会を行いました。学会を通じた横の繋がりを活用することで、会員が所属する国内外の教育研究機関の情報を交換できるメリットもあり、女性研究者間の情報交換や共同研究推進にも役立っています。分野として次世代を担う若手の育成や国際化促進のためにも、学会として取り組める活動が広がっています。

電気学会全国大会シンポジウム 「男性のための男女共同参画入門」

今年3月に電気学会男女共同参画推進委員会主催のシンポジウムを協賛し、女性未来育成センターの紹介も行いました。国立女性教育会館(NWEC)理事長の内海房子氏は、男性が仕事以外に家庭や地域活動に時間を割き、女性とともに責任を果たすことが男女共同参画社会の実現に不可欠であること、京都大学の伊藤公雄氏は、長時間労働もたらす過労死や中高年男性の自殺の増加などの男性が直面しているジェンダー問題を語られ、男性がこの問題を自分のこととしてとらえ、女性とともに取り組む大切さを確認しました。

学会時の一時預かり保育は あたり前の時代です

- 法文学部1階に「保育・休憩室」があるのをご存じですか。ソファ
- ベッドに枕・クッション・毛布、レンジ・ポット・冷蔵庫・掃除機などを備
- えていて、授乳室、一時保育室として、
- 愛媛大学の教職員および学生ならど
- なたでも利用することができます。
- 愛媛大学で開催される学会時に
- は、一時預かりの保育室として利用さ
- れることもあります。



政府の目標 「指導的地位に占める女性の割合2020年30%へ」

平成26年6月24日安倍総理は『日本再興戦略』改訂2014—未来への挑戦—を発表し、経済界へも女性登用へ向けた目標を設定し、自主行動計画を策定するよう依頼がありました。9月の国連総会でも「女性のエンパワーメントは1年を経ずして、我が国政策を内外で牽引する主導理念になりました」と明言しています。各経済団体は女性の活躍推進に向けて、それぞれ積極的に取り組んでいます。

また、国会では、実効性の高い法的枠組みの構築のために、「女性が活躍できる社会環境の整備の総合的かつ集中的な推進に関する法律案」が、継続審議中です。

日本経済団体連合会

企業行動委員会に女性の活躍推進部会が設置され、取り組みが行われている。

平成25年7月に「女性の活躍推進・支援に関する取り組み事例集」を、平成26年4月には「女性の活躍アクション・プラン～企業競争力の向上と経済の持続的成長のために」を公表している。

日本商工会議所

労働委員会の下部組織として、新たに「若者・女性活躍推進専門委員会」を設置。松山商工会議所も、経済成長を支える女性の活躍推進を支援するとして、女性の活躍推進に関する普及啓発セミナーの開催や、企業内で女性の活躍推進を担うリーダーづくり研修会を開催している。

経済同友会

平成24年5月に「『意志決定ボード』のダイバーシティに向けた経営者の行動宣言～競争力としての女性管理職・役員の登用・活用」を公表し、2020年までに女性役員の登用も含め、「女性管理職30%」の目標を打ち出している。

ミニ情報

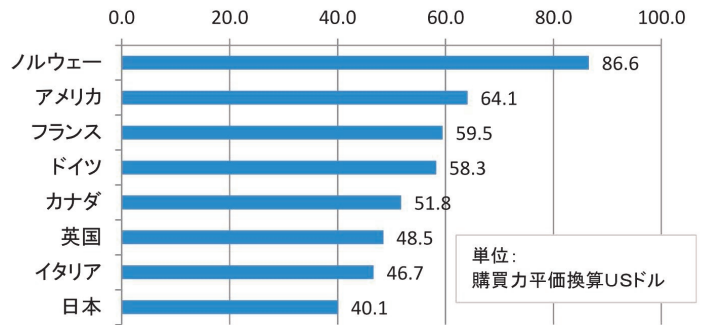
愛媛県法人会連合会・・・えひめイクジョイ・イクメン研究所を運営、11/19にはワークライフバランス促進セミナーを開催、参加無料
NPO法人ワークライフ・コラボ・・・えひめの次代を担う親づくり推進事業やポジティブアクションのための企業訪問事業など実施中

数字でダイバーシティ☆⑤ 日本人は効率悪い？

日本の男性の休日も含む1日当たりの平均労働時間は375分で、OECD26カ国中最長です(2014年3月OECD発表)。一方で、労働生産性の指標として1時間あたりのGDPをOECD34カ国と比較したところ1位はノルウェー。右のグラフの通り、日本は主要先進国7カ国中最下位。男性、女性にかかわらず働き方の見直しが必要なのです。

個人の生活体験によるインプットが、仕事でのアウトプットにつながるの今は常識。貴重な時間を有効に使いたいですね。

就業1時間あたりGDP (2012)



公益財団法人日本生産性本部「日本の生産性の動向2013年版」より

教員・卒業生もロールモデルとして活躍！

愛媛県では、様々な分野で個性と能力を発揮し、いきいきと活躍する人たちの「えひめ男女共同参画のためのロールモデル」として紹介しています。本学からは教員1名、卒業生5名を推薦し、H25～26年度で下記の方々が高中生へのキャリアデザイン講座に派遣されました。地域とともに男女共同参画を進めています。

- 光澤安衣子(特定非営利活動法人西条自然学校研究員)
H25.6.19 「科学博物館の仕事 おもて・うら」
- 縄田靖子(エリエールプロダクト株式会社商品開発部)
H25.8.7 「理系女子の働き方」
- 杉浦美羽(愛媛大学プロテオサイエンスセンター准教授)
H26.10.29 「幸せな人生を送るための人生設計と今やっておくこと」

女性研究者ランチ交流会 in 医学部を開催！

女性支援WGが企画し、9月22日(月)、医学部のある重信キャンパスへ、城北・樽味キャンパスの女性研究者たちが医学部と附属病院の見学ツアーに行きました。まずは新しくなった附属病院前で学部長に歓待を受け、その後、総務課長と女性未来育成センターの兼務センター員でもある法医学の浅野水辺(あさのみぎわ)教授に、附属病院の外來棟、院内食堂、医学部附属手術手技研修センター・Aiセンター、図書館などキャンパスのリニューアルされた部分をご案内いただきました。その後のランチ交流会では、医学部の先生も合流し、普段は距離が離れていて、なかなかできない交流の時間を持ちました。



12月15日(月)16:20～

リケジョ就活カフェ

～就活心得と働く女性の生き様～

先輩たちが後輩たちへメッセージとエールを贈ります！農学部教授柿原文香先生や日本食研の技術者による就職の先にあるリケジョの生き様の話、就活や教採を終えたばかりの先輩たちによる身近で具体的な話、さらにキャリア・コンサルタントの石井真奈先生からのコメント、質問交流の時間も持ちます。文系の方もご参加ください。

「ひめルーム相談室」では、

様々な本も貸し出しています。

★気軽に読めるおすすめ本

岩波ブックレット No.791

「女性を活用する国、しない国」竹信三恵子

グローバル化を背景に社会のニーズが多様化するなか、男性中心の発想では社会は閉塞するばかり。女性を活用しない国・日本の実態を検証し、人手不足等から社会全体で女性の活用を進め、経済の活性化に成功した諸外国の例が紹介されています。

12月9日(火)13:00～ 公開シンポジウム

「女性の活躍と地域の発展」

会場:総合情報メディアセンター メディアホール

地域の発展には新しい視点が必要！女性のやる気と能力を埋もれさせず、磨くこと、それがまず第一歩です。

今、大学・企業・行政は連携して地域を元気にしていかなければなりません。パネルディスカッションでは「女性の活躍で、地域が変わる」をテーマに他大学や企業の方も交えて意見交換します。ぜひ、ご参加ください。

特別講演

「九州・沖縄アイランドが取り組むダイバーシティ推進と大学の役割」

宮崎大学副学長・清花アテナ男女共同参画推進室長 伊達紫氏
基調講演

「四国五大学連携による男女共同参画推進のこれから」

徳島大学理事・副学長 岩川雅士氏

編集後記

枝

葉

末

説

センターに配属されてから二週間・・・色々な方に助けてもらいながら毎日を送っています。職場ではセンター関係者の方に助けてもらい、家では主人や子供に家事を手伝ってもらい助けられています。そんな毎日を送っていた週末に見つけた記事なのですが、総務省の統計で共働き夫婦が家事に費やす一日の平均時間は男性が12分女性が3時間37分という結果でした。働いている時間や形態がちがうので一概には文句は言えませんが・・・12分の家事とは何でしょう？一人暮らしの人で掃除や洗濯をしなくても12分は家の事はしているはずですよね。という事は自分の事もしてないのでは？そもそも私も助けてもらっているのではなく、元は分担するものでは？休日のごはんくらいは作れーと主人に叫びたくなったのですが、必ず丼物のみの食事になるのでやめておきました。(るるる)

「ひめーる」

配信中



女性未来育成センターの各種情報をメールマガジンでお届けしています。配信希望の方はこちらまで。

⇒hime@stu.ehime-u.ac.jp